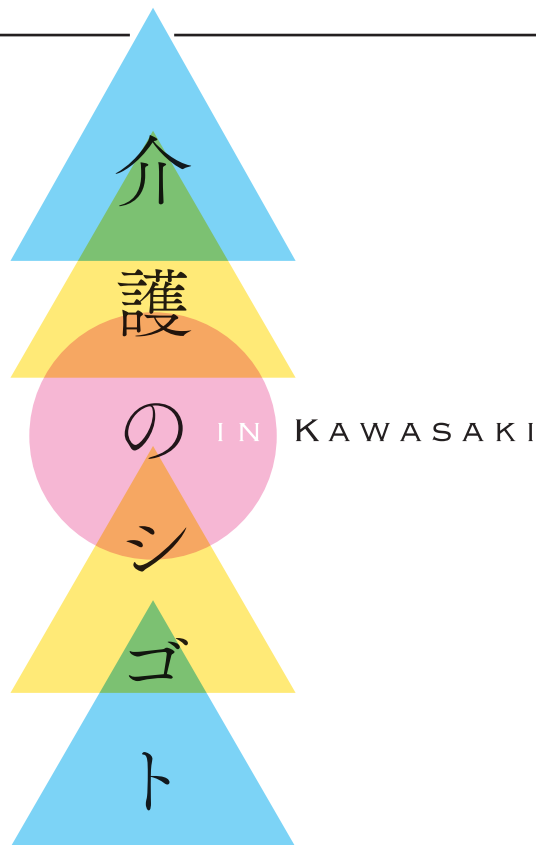


介護の仕事は、身体上・精神上の理由により
日常生活に支障のある方が
社会の一員として尊厳ある自立した生活を送れるように、
さまざまな角度から寄り添い、支援していく仕事です。
「ありがとう」の言葉が生まれる介護の現場。
ケアによって人と人の心が通いあう、
そんなかけがえのない瞬間があなたを待っています。
介護という仕事を通して、一人の人として誰かの人生に
寄り添うことは、何ごとにも代え難い経験になるでしょう。
ぜひ介護の仕事の楽しさ、奥深さに触れてみてください。



シ
ア
ワ
セ
を
届
け
る
シ
ゴ
ト
が
あ
り
ま
す

シアワセを届ける人

介護のプロ インタビュー

※「介護のシゴト in Kawasaki」より抜粋

1

山口道子 MICHIKO YAMAGUCHI

やまぐち みちこ:40歳/宮前区の軽費老人ホームに勤務。介護職員。
20年の福祉職員のキャリアの中で、旅、結婚、出産、子育てを経験。
現在、3人の子どもを育てながら、介護職との両立を模索中。



介護の仕事が自分の価値観を広げてくれた

働き始めて5年経った頃、「今の自分では介護の仕事は務まらない」と感じた時期がありました。利用者さんは自分よりずっと年配の方。実に様々な経験をされてきた方がたくさんいるんですよ。そのような方に対して、自分はいつも決まった言葉でしか接することができない。相談相手になるには、あまりにも自分の視野が狭すぎると感じたんです。

そんなとき、世界一周を経験した同僚やスウェーデンへ福祉の勉強をしに行く同僚に刺激を受け、私も一度世界へ出てみようかと半年間仕事を休んで旅に出ました。この期間でぐっと価値観が広がりましたね。そして旅をしていると、やはり高齢者の方ばかりが目について、「またこの仕事に戻って来たい!」と思ったんです。

20年間ずっと同じ法人で働く中で、ケアハウス、訪問介護、デイサービスなどさまざまな業務を経験し、「こういう世界もあるんだ!」と常に価値観が広がってきた感覚です。

2

和田昌俊 MASATOSHI WADA

わだ まさとし:33歳/中原区の障害者支援施設に勤務。生活支援員チーフ。
障害者支援施設に12年間勤務。次世代の職員の育成にも注力。
「衛生管理者第1種」勉強中。趣味は筋トレと旅行。



身近な存在として寄り添う心で共に人生を歩みたい

利用者さんと接する上で、一番大切にしていることは、現場での利用者さんとのコミュニケーションです。とくに知的障がいのある方は、表出している言葉や行動は心境のごく一部であることが多いため、さらに奥にある本当の気持ちを汲み取ることが重要になってきます。利用者さんの中には、自分の気持ちに我慢して、言葉に出せず、しんどくなってしまう方もいます。

「自分はこの人にきちんと寄り添うことができるのか?」と自問自答を繰り返し、悶々とすることもあります。利用者さんの「やりたい気持ち」を実現していけるような環境が作れたときや、利用者さんに「ありがとう」と言葉をかけてもらったときは、自分の悩みもどこかへ吹き飛ばすような喜びを感じ、気分爽快になりますね。

身近な存在として寄り添い、その人と幸せを共有する。そして誰かの思い出になれることが、福祉の仕事を続ける原動力になっています。

田口 涼 RYO TAGUCHI

たぐち りょう:33歳/幸区の特別養護老人ホーム勤務。生活相談員。
専門学校卒業後、「介護福祉士」「介護支援専門員」を取得。
現在は「社会福祉士」取得を目指し勉強中。妻と子ども2人の4人暮らし。



多方面から見る「バランス力、で本質的なケアを

施設の窓口として入居の案内をしたり、入居者さんやご家族の方の意向を反映して最適なケアプランを提案するケアマネジャーをしています。学校卒業後は介護士として働いていましたが、より広い視野でその人をケアできる立場でいたいと感じ、この仕事を選びました。

介護は、現場でのワンマンプレイではなく、介護士、ケアマネジャー、医師、看護師、機能訓練士、管理栄養士、厨房の職員等の専門職が連携を図って進めていく多職種協働のチームケアです。その人らしい生活を多方面からケアしていくこと。それが「本質的な介護」だと日々感じています。

本人やご家族の多様なニーズを、まずは受け入れる姿勢でいること。自分と意見が違って、それが利用者さんにとって害のないことであれば、他職種と連携をとる、家族の確認をとる、一度試してみるなど、さまざまな方法を提案していける「バランス力」を意識していきたいですね。

山崎 映子 EIKO YAMAZAKI

やまざき えいこ:63歳/中原区の訪問介護支援事業所に勤務。ホームヘルパー。
結婚・出産後、理系女子から転身。2人の子どもの育てながら「介護福祉士」
「同行援護従業者」を取得し、20年以上勤務。目標は、78歳まで働くこと。



日々の現場での刺激が仕事を続けるエネルギー

介護の仕事を始めて、まず世の中には本当にさまざまな方がいることに気づかされました。戦争を体験された方は物をとても大事になさるし、たとえば煮魚の汁一つとっても、それぞれ活用の仕方が違う。その方の人生経験や考え方に触れ、生活を知ることが日々刺激的です。

ホームヘルパーは1人で現場に入っていく仕事なので、「全部1人で判断し、行動しなければいけない」とプレッシャーを感じる方もいます。でも実際は、現場で何かあったらすぐサービス提供責任者に相談できますし、ヘルパー仲間も支えてくれるので、安心して仕事ができます。

とはいえ、20年以上この仕事をやっていても、初めての現場はとても緊張します。何気ない会話の中から心を通わせ、安心していただける関係性を築くためには、「コミュニケーション力」と「気づく力」が大切。

「介護のプロ インタビュー」は、介護職に興味のある方のための
情報をまとめた「介護のシゴト in Kawasaki」より抜粋したものです。
詳しくは下記「川崎市福祉人材バンク」までお問い合わせください。



「みんなのシアワセ」を応援します

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会

川崎市社会福祉協議会は、川崎市における社会福祉事業、その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的として活動しています。

本会は、川崎市市内において、自治・福祉・保健・医療・教育の活動を行う団体・組織等の会員で構成されています。

お問い合わせ

川崎市 中原区 上小田中6-22-5 川崎市総合福祉センター6階
電話:044-739-8710 <http://www.sfc-kawasaki.jp>



「シアワセを届けたい」を応援します

川崎市福祉人材バンク

福祉に関する仕事の無料紹介や就職相談会の開催、福祉関係の研修を実施しています。

また、福祉の仕事の魅力発信、将来の福祉人材のための普及啓発を行っています。

お問い合わせ

川崎市 中原区 上小田中6-22-5 川崎市総合福祉センター5階
電話:044-739-8726 <http://www.csw-kawasaki.or.jp/jinzai/>



イメージキャラクター
「ほったん」